

今月1日の販売会は10分ほどで完売した



校内で飼育されているニワトリ

取れたて卵 住民に好評

金足農高 授業で生産「看板商品」

秋田市の金足農業高校は、授業の一環で生産したニワトリの卵を販売している。地元住民らに好評で、行列ができることも多い同校の「看板商品」だ。生徒は「多くの人に自分たちが生産した卵を味わってほしい」とPRする。

農業について学ぶ同校では、授業で作った野菜や果物を定期的に地域住民に売っている。畜産について学ぶ生徒もあり、校内では約300羽のニワトリを飼育し、1日約200個の卵を生産している。

正門近くの「金農あぐり交流館」で、1袋1千（16個前後）入り300円で販売する。例年は毎日販売していたが、新校舎の建設工事を受け昨年から不定期での販売となっている。

今年は4月以降販売会を実施。6月以降は新しいニワトリが入荷したため休止していたが、成長して卵を産めるようになった今月から再開した。今月1日の販売会では約30袋が10分ほどで売り切れた。

ニワトリを世話するのは、主に生物資源科で畜産を学ぶ生徒たちだ。毎日、鶏舎に並んだニワトリに餌をあげたり、鶏舎内を掃除し

たりして世話している。集めた卵は一つ一つ丁寧に消毒や洗浄、拭き取りをして販売している。

1年の佐藤千晴さんは「命と食の大切さを感じながら授業に取り組んでいる」と話す。3年の瀬部莉奈さんは「自分たちが生産した

卵を、多くの人においしく食べてもらいたい。ニワトリの世話を通じて食料を生産する苦労を学ぶことができた。金足農といえは卵、

と言ってもらえるようなブランドになったらうれしい」と語った。

卵は月、木曜（祝日を除く）の午後2時に販売している。今年は10月2日までの予定。問い合わせは同校☎018・873・3331（石塚佳治）



学校で生産された卵をPRする金足農高の生徒